



・発行・
京都障害者
スポーツ
振興会

題字 芝田 徳造

東日本大震災復興支援

第11回全国障害者スポーツ大会

「おいでませ！山口大会」に参加して

「おいでませ！山口大会」
に参加して

水泳専門部
筒井 忠彦

この「おいでませ！山口大会」に向けて、選手たちは6月から月2回、3回の強化練習を行ってきた。毎回の練習に一生懸命練習しても思うように、タイムが伸びずに苦しんだ時期もありました。そんなときは、選手同志で励まし合い、もちろんコーチとして選手一人ずつにあつた練習内容を考えたたり、スタートやターンなどの基礎的な練習をきつちりしてもらったりと、いろんな方法で練習を積み重ねてきました。

また「しっかり泳ぎ込む」をみんなで合い言葉とし1回1回の練習を大切にしてきました。そうする

ことにより少しずつタイムが伸びてきました。そして大会では金3個、銀3個、銅1個の総数7個のメダルを獲得し、また、メダルをのがした選手たちも自己記録を更新することができました。

こうして選手たち全員が本番で自己の能力を最大限に発揮することができ感動しました。そのうえ、日本知的障害者水泳大会の標準記録を突破した選手に、日本知的障害者水泳連盟強化部からは是非大会にエントリーして大会に出場し強化選手になってほしいとの依頼があり、2重の喜びとなりました。

この大会を終えて、選手たちは目標に向かって努力し、それを成し遂げることができたと思えます。また、私も選手たちの努

力の結果が成果につながり、少しでもそのお手伝いできたことがとてもうれしく、やりがいがありました。本当にこの「おいでませ！山口大会」に水泳コーチとして参加させていただけき心より感謝いたします、ありがとうございます。

全国障害者スポーツ大会とは？

「目的」
障害のある方が競技等を通じてスポーツの楽しさを体験するとともに、人々が障害に対して理解を深めることを目的とする障害者スポーツの祭典です。

「歴史」

全国障害者スポーツ大会は、平成12年まで別々に開催されていた「全国身体障害者スポーツ大会」と「全国知的障害者スポーツ大会」を統合したものです。全国身体障害者スポーツ大会は、昭和40年に国体を開催した岐阜県で第一回大会が開催され、以後毎年国体開催地を巡り、全国知的障害者スポーツ大会は、平成4年に東京都で第1回大会が開催され、以後毎年各都道府県持ち回りで開催されてきました。平成13年から

れ、「全国障害者スポーツ大会」となり、宮城県で第1回大会が開催されました。以後、オリンピック終了後に開催されるパラリンピックのよう、国体終了後に3日間の会期で毎年開催されています。

「主催者」

厚生労働省、(財)日本障害者スポーツ協会、開催地都道府県・指定都市等の共催による開催です。開催地の代表は都道府県です。

「競技種目」

- 個人競技(6競技)
1. 陸上競技(身・知)
 2. 水泳(身・知)
 3. 卓球(身・知)
 4. サウンドテニス(身)
 5. アイチェリ(身)
 6. フライングディスク(身・知)
- 団体競技(7競技)
1. 車いすバスケットボール(身)
 2. バスケットボール(知)
 3. グラウンドソフトボール(身)
 4. ソフトボール(知)
 5. バレーボール(身・知・精)
 6. サッカー(知)
 7. フットベースボール(知)

(身)身体障害者の方が、(知)知的障害者の方が、(精)は精神障害者の方が出場する種目です。
(裏面へ続く)

行事予定	1月	15(日)	238回障害者水泳のつどい	伏見港公園プール	来月のつどいは 2 / 12 第2日曜日
		21(土)	ゆうあいボウリング大会	アルプラザボウル(予定)	
		22(日)	城陽障害者スポーツのつどい	サン・アビリティーズ城陽	
		29(日)	第9回京都障害者チャンピオン卓球大会	京都市障害者スポーツセンター	
	2月	12(日)	雪あそびのつどい	花背山の家	
丹波障害者スポーツのつどいは 1月は中止です 京都障害者スポーツ振興会ホームページ TEL/FAX075-712-7010 http://web.kyoto-inet.or.jp/people/spo-shin/ (2011年11月27日に一部更新)					

(表面より)
山口国体・
ちよるとの出会い

岩隈 美穂

10月20日から25日まで初めての(そして最後の)山口国体に参加させてもらった体験についてこれから書こうと思う。まず最初に、今回の参加に際して関係者の皆さまからさまざまなサポートをいただいたことに深謝したい。

宿泊施設は確かに辺鄙なところではあったが、最初に決まっていた別のホテルが車椅子で使える風呂トイレが一つも無く、とてもそんな所に泊り出ると自信がなかった。京都代表を辞退させてもらえようとお願ひしていたことを考えると、他の場所より多少食事が見劣りしようと思えば行く所が無さうと全く気にならなかった。

大会についてはいろいろ思い出されることはあるが、近くの特別支援学校で練習をさせてもらい、一期一会の機会を得たことが一番印象に残っている。何人かの生徒と先生達が放課後練習している中、一人だけ車椅子で練習して

いた男子生徒がいて数年前の自分の姿と重なった。京都に来るまでは健常者のクラブしか入っておらず、そのため私もどこに行ってもたった一人の車椅子選手だったので、男子生徒が練習に苦労している様子が良く理解できたのである。「次世代の選手に引き継ぐ」、「開催地に貢献する」という観点からもう一度訪問したかったがかなわず、このまま山口を去ると思っていたらなんと閉会式の会場の外で再会し、卓球を続けて今度は全国大会で会いましょう、と伝えて別れることが出来た。

もう「いつ国体に出るか」とは聞かれなくなるのがちよつとさびしいが、山口で「ちよると」に会えたのでよしとしよう。このちよると、最初は何とも思わなかったが大会マスコットとして卓球したり、泳いだり、バスケットしたりと元気な姿を毎日どこかで目にしている。「なかなかラブリーじゃない」と段々感化され、お土産会場では「京都と一緒に暮らそうよ」と口説いて何人か連れて帰ってきてしまった。帰京後は「兵達の夢の後」とはいかず仕事に切り

替えていたところ、しばらくして東京の知り合いから連絡があった。彼は2年後に決まっている東京国体の委員として準備を始めている。「これまでの国体が大会期間だけバリアフリー化を急ごしらえで行い、終了後は元のバリアフリーな状態に戻すからいつまでたっても日本は障がい者の国際大会を招致できない。今度の東京国体を機に、宿泊施設、交通などといった公共インフラを改革していきたい。そのために山口での経験を聞いて教訓としたいから協力して欲しい」と言われた。

すでに2年後に向けて始まっているのである。東京での大会が「6日間限定バリアフリー国体」を超えることができれば、国体を通じての地域の恒常的バリアフリー化のいいモデルとなるかもしれない。最後に肝心の試合は、普段の悪いところが全部出てしまったような内容で、夜中に目が覚めると今でも地団駄踏みたくなる。これに関して急なモデルチェンジはあり得ず地道に練習を続けていくしかない。山口で出会ったちよるとともに。

おいでませ！山口大会に参加して

岩崎 豊

昨年からは卓球のボランティア指導員としてお世話になってます。日々の暮らしに心のゆとりが少しもてるようになったことをきっかけに、障害のある人と心と心のつながりを大切にしたいと強く感じ、スタートさせました。

月に一度の練習を積み重ねていく中で、一人ひとりの素直な感情、ひたむきな練習態度、人としての素晴らしさに改めて心を打たれました。そうした中で、今年選手とともに山口大会に参加することになりました。選手とともに山口県に向かい、開閉開式、前日練習、大会当日、生活面すべて共に行動することで、よりその人のよさにも気付かされ、共に過ごした6日間が貴重な財産となりました。

選手の方々も、開閉開式、試合当日、旅館での生活など、想像以上のかけがえのない日々を体験されたと思います。試合当日もスポーツセンターで共に練習

してきた自分の卓球力を緊張感漂う最高の舞台で出しきれました。試合を終えた後、対戦相手の福島県の選手から、震災支援のお礼にとプレゼントを手渡されたふれあいの場、更には、香川県の選手との試合後、皇太子殿下よりやさしいおことばを受け感動したその貴重な体験は一生心の中に残っていくことでしよう。

大会を通し、参加された選手の皆様は、今まで自分から、新たな自分を再発見できる場となり、より一歩前へと自立の道をあゆんでいけるのではと確信しました。山口大会でのすべの感動に感謝の心を持ち、これからも一人の社会人として、更には自分の卓球力を高める場として、また、人とのつながりの場、コミュニケーションを高める場として共に、楽しみつつ歩んでいきたいと思えます。

